

農作物被害が深刻化しています。近年では季節に左右されることなく市街地にまで及んでいます。その背景には、「自然環境開発など人間活動」「自然に働きかける人圧の低下」「外来種問題」「地球温暖化問題」などが指摘されています。

『自然環境開発など人間活動』

日本列島は、気候が溫柔で、生き物や生態系の種類が豊富ですが、その一方、世界で最も人口密度の高い国でもあります。そのため、生き物はいつも人間活動の強い影響にさらされています。山野を切り開いての市街地化や森林伐採、河川改修、大規模な圃場整備など直接的に生き物の棲家を奪う人間活動があります。森林伐採は、広大な森林を必要とする生き物の棲家を奪います。開発に伴う物理的な環境の変化により、多くの生き物の生息地の条件が悪化したり、失われたりしています。

獣害対策 自然界の復活が先決

猿新間

編集責任者
山村 準
tel: 0595-63-1725
Email
yun.y@asint.jp
張鳥獣害問題連絡会

発行部数
全戸回覧】
錦生地区：100部
赤目地区：150部
箕曲地区：70部
なち地区：220部
つじが丘：430部
全戸配布】
国津地区：380部
民センター：90部
(9地区)
名張市議会：20部
名張市役所：30部

支えてきた「里地・里山システム」が崩壊し、人間の活動によつて維持された環境に依存する多くの種が今絶滅の危機に頻しています。また、人間活動によりこれまで個体数が抑えられてきた、サル、シカ、イノシシなどが、若者の「やまばなれ」や、狩猟人口の減少・高齢化による狩猟圧の低下よつて、個体数を増やし、農作物被害などの人間との確執や食害による植生の急激な衰退などを引き起こしていきます。

このように自然界は適正な人間の管理を必要としているのです。「鳥獣害問題」は、私たち人間の身勝手な活動がもたらしたもので、私たち自身が解決しなければならない「環境問題」の一とつとして、考えなければならぬ課題です。

『外来種問題』

世界は、長距離を移動可能な交通・輸送手段の発達で身近になつたといわれています。この手段で世界中を飛び回るのは人間ばかりではなく、意図、非意図に関わらず日本国内に入つてくる種が増えています。意図的にペットとして取引される生

き物や、輸入穀物などに混ざった野生植物の種子や害虫など非意図的なものなどです。外来種とは人間の活動によって、他の地域から連れてこられた生き物を指します。

外来種というと海外から入ってきた生物をイメージすることが多いと思います。日本は南北に長い列島で、国内でも多様な生態系が構築されていて、その地域特有の種が数多く見られます。これらの種が人の手で他の地域に運ばれ、移動した先の地域で新たに定着し、問題を引き起こすことがあります。これを國內由来の外来種問題といいます。

また、殺虫剤や除草剤などを含む、様々な化学物質も、人間が生態系に持ち込んだもので、これららの化学物質が昆虫の減少など生態系に悪影響を及ぼしています。全ての外来種が悪影響を及ぼすわけではなく、自然のバランスの中に組み込まれ、大きな影響を与えずに順応してしまう生物もあります。しかし、中には非常に大きな悪影響を及ぼすものもいます。

外来生物は、栽培・飼育下でしか生きられない

が起ります。農作物を食べたり、畑を踏み荒らすなど農業被害も脅威となっています。また、近縁の在来種と交雑して雑種を作ってしまい、在来生物の遺伝的な独自性が損ねる問題もあります。さらに、外来の新たな病原体も、抵抗力をもたない在来の生き物には、思いがけない重大な症状をもたらします。

外来種問題は全て「人間の責任」です。私たちは責任を持つて自分たちで管理できるものは管理を徹底し、自然のバランスを崩さないよう心がける義務があります。

『地球温暖化問題』

さらにつき大きな問題は、近年起きている地球温暖化による気候変動です。日本は南北約2000キロに長く伸びた列島で、北の亜寒帯から南の亜熱帯に至る多様な気候帯をもち、森林植生も北の針葉樹林帯から南の亜熱帯林まで、多様性に富んでいるのが特徴です。

わが国に広く分布する落葉広葉樹林は、亜寒帯の代表的な森林で、野生動物の生息地でもあります。この落葉広葉樹林が気温が4℃上

原因は諸説あります
が、気候変動とする説
が有力です。だが、二
の時代の気候変動は人
為的要因は考えられま
せん。しかし、近年起
きている生き物の絶滅
は人間活動が原因で、
かつてないスピードで
多くの生きものが絶滅
しつつあります。しか
も地球的規模で…。
これらの要因、全てが
経済発展のための人間
活動にあることは疑う
余地がありません。
温室効果ガス排出規
制問題は京都議定書以
来の世界的課題ですが
未だに解決が見られて
いません。

それぞれの生き物は
食物連鎖の中で、密接
に繋がり微妙なバランス
を保っているのです
一種の絶滅によって生
態系バランスが崩れ、
自然環境全体に大きな
悪影響を与えてしまう
ということを、心にと
どめて置いて下さい。
世界各国が「赤信号」
みんなで渡れば怖くな
い」的な安易な認識で
二酸化炭素の排出を続
けていると、地球は生
命存続不能な惑星にな
ってしまう日が遠からず
やってきます。

私たちは便利さや快
適さを求めるあまり、

鹿を知ろう ①

鹿を知ろう ①

自然環境に大きな影響を及ぼし、動植物の生息・生育環境の悪化などの問題が生じているほか、森林の多面的機能による大きな悪影響を

毛換えをします。春先になると「鹿の子模様」とよばれる茶褐色に白い斑点がある被毛になります。秋頃になると斑点が消え



繁殖期は秋季（10月頃）。オスの小鹿は1歳で、メスの群れから離れます。これは近親交配を避けるためシカはオスとメス、別々に群れを形成し、メスの群れは「メスと小鹿」、オスはオス同士の群れを作る、または単独で生活しています。シカは一夫多妻で、強いオスが縄張りを作つて、メスとハーレムを形成します。妊娠期間は約7カ月、春（5月頃）に出产し、毎年1頭（1産1子）を産みます。小鹿は約10～12ヶ月で離乳し、オス・メスともに約16～18カ月で性成熟します。飼育下のシカの寿命は、約15～18歳とされ、中には25歳を超えたシカもいるそうです。栄養状態が良好であれば、妊娠率は、70～80%と言われています。さらに10歳を超えて、妊娠率は90%と低下しないことから、シカは繁殖力の高い動物と言われています。餌が豊富な環境下に生息するシカは、70%以上のメスが10年間、毎年1頭の小鹿を産み続けるということになります。推定ですが、シカの自然増加率は20%と言われており、捕獲しないと4～5年で生息頭数が倍増します。個体数を抑えるにはメスジ力の捕獲が効果的です。



人間と動物の共存

平成6年、全国で「平成狸ぽんぽこ」という映画が上映されました。昭和40年代多くの狸や狐、猪、鹿などの野生動物が平和に暮らしていた東京多摩丘陵地帯。そこに多摩ニュータウン開発計画が起り、山や森が破壊されてゆくことに反対した動物たちが集まり相談

（ばけがく）を駆使して開発阻止行動を起こしましたが、結局ニュータウン開発によって、山や森が破壊され狸や猪、鹿など野生動物の餌場が無くなってしまいました。

その後、狸や狐は人間に化けて、人間社会に溶け込んで獣害という形で抵抗しているという話でした。

名張市でも多摩ニュータウン開発と同じ時期に大型宅地開発が起り、その後、猪や猿、鹿が住宅地に出没するようになり農作物などの被害が出ています。

が増えているのも確かです。この映画は、人間と動物との共存・共生について考えさせられた映画だった思います。

文・田北 利治

① 国の法律 「鳥獣による農林水産業等に係わる被害の防止のための特別措置に関する法律」が平成19年12月成立。

② 平成19年法律第百三十四号により「鳥獣被害駆除防止特措法」として施行。その後課題への対応を強化するため、平成24年・平成26年・平成28年12月2日施行が現最終更新公布により政策の実施は、農林水産大臣が作成した被害防止施策の基本指針に則して、市町村が被害の実態に対応した鳥獣被害防止計画を作成する。これにより被害防止計画を作成した市町村に対して、国や県などが連携。③一、財政支援、二、権限移譲、三、人材確保により支援処置を実施。

④ 三重県では平成29年4月1日～平成34年3月31日までの5年間の計画で第12次鳥獣保護管理事業計画により実施中。

⑤ 三重県では平成29年4月1日～平成34年3月31日までの5年間の計画で第2期。

⑥ 第2種特定鳥獣管理計

市・任意団体の取り
古川 高志

対策
画（二ホンザル）実施中
⑦サルについて、平成13年度からメスザルに電波発信機を取り付けられ、動向が把握できるようになり平成14年より三重県の事業として三重県サル位置情報システムとしてラジオテレメトリー法によつて位置情報がわかるようになり、その後任意団体「サルどこ」ネット」が構成され、メンバーよりつて継続的に位置情報がわかるようになり現在に至る。

⑧名張市では平成29年3月31日に名張市鳥獣被害防止計画が公告された。

又、平成24年3月27日告示 名張市鳥獣害被害防止計画が公告された。

対策実施隊設置要綱（平成30年9月21日告示が現行）

⑨平成7年3月31日告示
名張市鳥獣害捕獲事業報奨金支給要綱（平成23年3月31日告示が現行）

⑩平成31年3月28日
名張市鳥獣害防止事業補助金交付要綱決まる。

⑪これらに基づき宇陀市名張市では県境を跨ぐ猿被害防止の為平成18年宇陀・名張地域鳥獣害防

止広域対策協議会を設
共同で被害防止に平
21年度からは協議会で
生動物を追い払い使役
としてモンキードック
訓練育成に取り組む。
⑫主としてモンキード
ックの認定犬飼い主によ
る「モンキードック俱樂部
設立(平成23年4月12日)
追い払いを飼主各人
住区及び会員による被
地区にも追い払い活動
める。

⑬又協議会から猿行動
握用として 平成20年
月受信機 20台用意、
としてモンキードック
い主追い払い隊など
係者に貸与。

⑭一部住民有志により
害防止啓発啓蒙団体と
て平成23年4月「名張
獣害問題連絡会」を設
報誌として「猿新聞」
毎月発行その他講演会
により啓蒙活動中。
開設。

平成23年4月木ーム。
ジ「やまだのかかー



近頃では比較的宇陀川に近い滝谷や宇陀川を越えた長瀬地区にまで足を伸ばしてきていて、大量捕獲前の誘導域に近づきつつあります。これからは春野菜の季節です。B群エリア集落は、油断せず十分な警戒が必です。

サル出没状況

名張A群の行動

2月中旬～3月中旬は、ひなち湖・青蓮寺湖を行き来している現状の中で、特徴的なことは数年ぶりに日々集落に侵入したことや、奈垣集落内に数日滞在したことなどがあります。また、2月15日にはモンキードック俱楽部の皆さんが、つつじが丘北1番町で複数追いを実施されています。

3月1日、名張獣友会による市内一斉獣害対策が実施されました。この群のサルたちは猫友会の事業が終わるまで山に潜んでいました。また、つつじが丘南8番町の住宅内に深く侵入したり、南6番町の市民農園にも侵入がありました。

以上、古川高志さん報告

名張B群の行動

B群では、B1発信器装着個体が群れに合流したことが確認されました。

名張A・B群出没状況

令和2年2月21日～令和2年3月20日

